

ハンドブック ワンポイント レッスン

知っておきたい規則とルールについて、
今回からQ&A方式でレッスンしてまいります。

Question

大会が行われている会場で時々見かける光景ですが、アンパイヤーが審判台をネットポストから離したり、ネットポストに近付いたりしています。メジャーで測定するのではなく、目安（歩幅）で行っているのを見かけます。審判台はネットポストから60cmの位置が正しいと聞いたのですが、どこからどこまでが60cmですか？正しい測定の仕方を教えてください。

Answer

審判台の部分で最もネットポストに近いところを水平距離で測り、その距離が60cmになるように位置する。

競技規則第11条(審判台)

審判台の座席の高さは1.50mを標準とし、ネットポストの最も近い部分の水平距離で60cmのところに置くものとする。

大会会場で全ての審判台がネットポストから60cmの位置に正しく配置されているかと言えば、必ずしも質問のようなことがあり、自信はありません。しかし、質問者が見かけられたようにアンパイヤーに携わった方が競技規則を常に遵守されている方だと思います。敬意を表します。

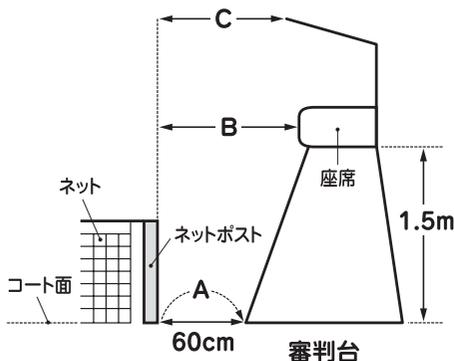
全国大会では大会の施設担当者が準備してくださっていますが、我々も現場で審判台が正しい位置に配置されているか、ネットの高さが1.06m～1.07mに張られているかメジャーを持って見回ることがあります。このような時に観客(応援に来られている方)から、審判台の位置まで測定するのですか？と不思議がられる事があります。競技が始まる前に、

会場の点検は必要です。ハンドブックの競技規則第11条に、「審判台の座席の高さは1.50mを標準とし、ネットポストから審判台の最も近い部分の水平距離で60cmのところに置くものとする」とあります。そこで、審判台の部分で最もネットポストに近いところを水平距離で測って、その距離が60cmになるように位置することが正しい位置になります。また、審判台を正しくネットポストに向けて、その中心がネットポストの中心に正対する様に置く事です。可動式の審判台の場合、正しく中央に置かれていなかったりしていることがあります。正しく置くようにしましょう。

下図を参照して下さい。

【横から見た場合】

A、B、Cのうちネットポストから審判台の最も近い部分(A)の水平距離で60cmのところに置く。



【上から見た場合】

審判台を正しくネットポストに向けて、その中心がネットポストの中心に正対する様に60cmのところに置く。

